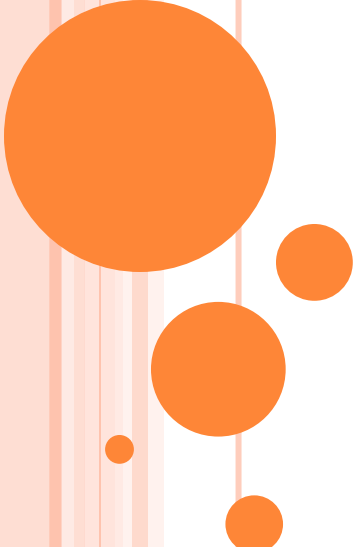


平成30年8月3日（金）
発達障害教育実践セミナー
第3分科会 実践事例



通級による指導に期待されること ～中学校・高等学校における通級による指導～

宮崎県 高鍋町立高鍋東中学校 教諭 田邊 芳子
(西都児湯特別支援教育エリアコーディネーター)

高等学校進学時の情報交換①

第3回中学校・高等学校生徒指導連絡協議会
(合格発表後 県立高校7校 私立高校2校)


- 生徒指導主事だけでなく、特別支援教育コーディネーターも参加し、高校のブース毎に中学校職員が移動し引継
- 口頭での引継ぎと個別の教育支援計画の手渡し(本校はどんな些細なことも伝えている)



高等学校進学時の情報交換②

1 県立C高等学校

- 地域支援体制構築における高校の拠点校
- 今年度より高校通級拠点校
- 本校からの進学者は、自閉症・情緒障害特別支援学級在籍生徒、通級による指導利用生徒など、支援を要する生徒もいる

 個別の教育支援計画でのつなぎ



《高校側の取組》

- 高等学校から合格時に、中学校と保護者に対して「相談室へのお手紙」用紙配布
- 寄宿舍で自立に向けた生活支援の事例

《中学校側の取組》

- 保護者支援で関わりのあった高鍋町障がい者（児）基幹相談支援センターをつないだ事例
- 子どもの貧困問題に取り組む支援団体との連携を考えた事例
- 療育手帳が非該当となり本校へ転籍した生徒の、福祉サービスをつなぐ事例

高等学校進学後の情報交換③

2 県立D高等学校

- 支援の優先度が低い生徒が進学する為か、個別の支援計画での引継ぎは少ない。

《高校側の取組》

- 3月末に高校側が来校しての引継ぎ
- 本校からの進学者は特に多く、学級編成等での情報を得る。

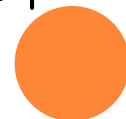


《高校側の取組：通級による指導対象の生徒について、その後の支援》

- 怒りのコントロールが苦手で、トラブルが絶えない生徒が、部活動顧問の連携により適応した事例
- 数学の苦手さが大きく、進路を見据えた支援を引き継いだ事例

《高校側の取組：口頭による情報提供した生徒について、その後の支援》

- 気になる生徒を中学時代に保護者面談をしており、コース選択を前に相談を受け、県発達障害者支援センターにつないだ事例



3 高等学校コーディネーター連携協議会 (エリア内の高校拠点校が主導)

- 「支援をつなぐ」為には、「人がつながる」

- 参加者

エリア内高等学校コーディネーター5校

支援学校コーディネーターとコーディネーター

エリアコーディネーター 通級拠点校通級指導担当

スクールソーシャルワーカー 県中央児童相談所

宮崎法務少年支援センター

高鍋町子ども家庭支援センター

高鍋町障害者（児）基幹相談支援センター

たかなべ障害者就業・生活支援センター



4 県内 他エリアの取組

- 高校側から「配慮を要する生徒の引継ぎシート」を提示し、合格発表後の中高連絡会において、高校側が聞き取りチェックをいれていく取組
- 多様な生徒を受け入れている通信制の高校教育相談部より、中学校を訪問しての通信制の説明および、連携の呼びかけの文書配布



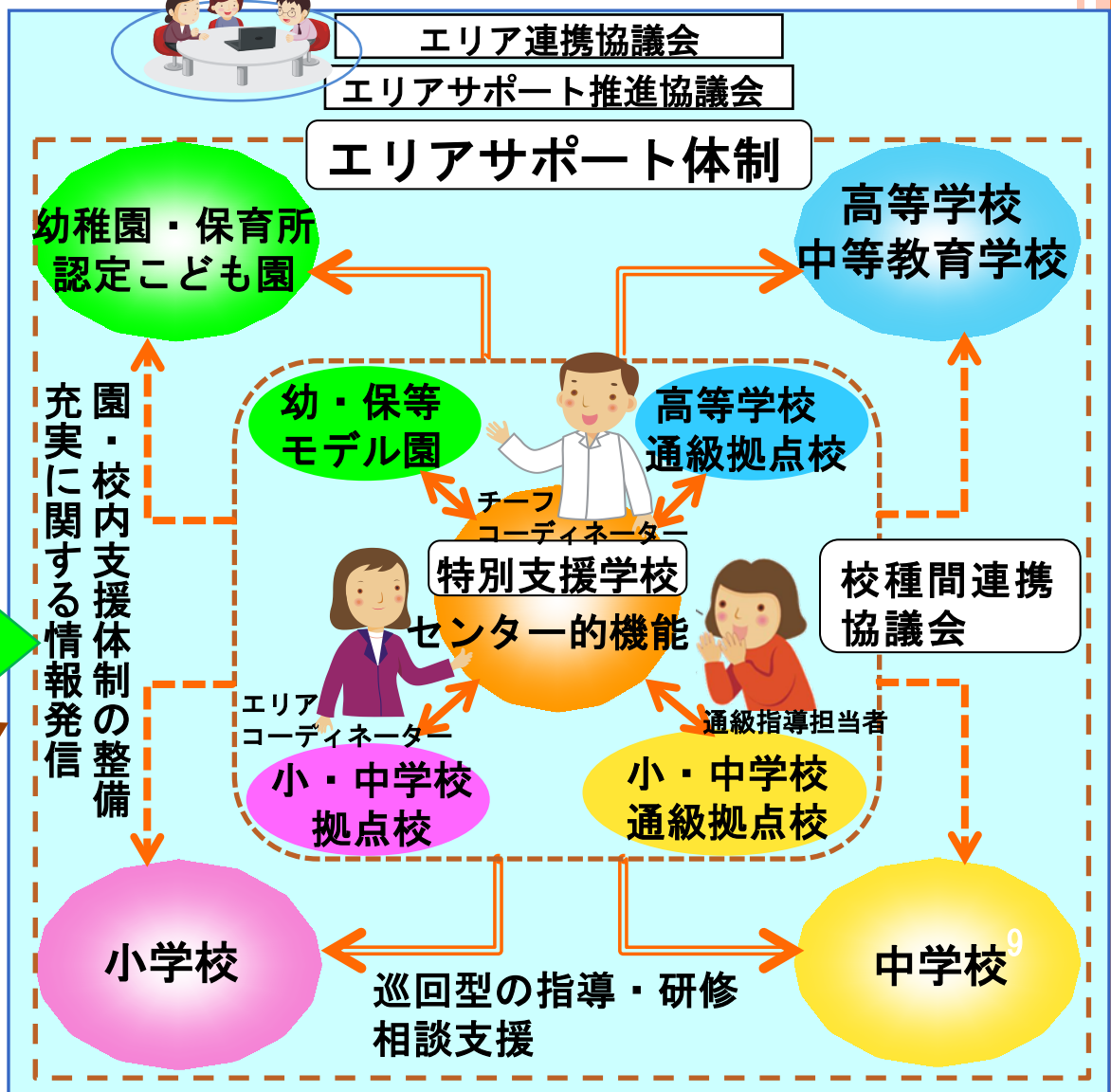
<参考資料>宮崎県エリアサポート体制のイメージ

障がい保健福祉圏域に
準じて7つのエリアに
分割



広域エリアサポートチーム

教育事務所ごとに編成された、医師や臨床心理士などの専門家のチーム



ありがとうございました

